

山形県・出羽三山

素材研究
(国内)



出羽三山神社の山伏修行「秋の峰入り」



約600年前に再建された国宝の羽黒山五重塔



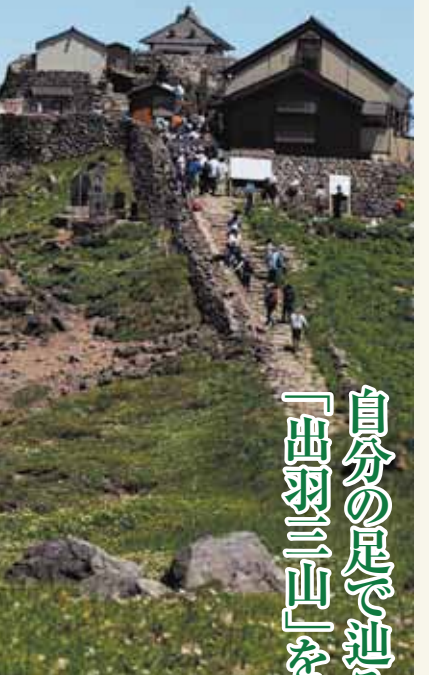
滝行が行われる御滝神社の滝壺(湯殿山)



ミシュランに登録された羽黒山は外国人旅行者にも人気



出羽三山山麓で採れる旬の山菜や筍が素材の精進料理



海拔1984メートルの頂上にある月山神社。月讀命(つくよみのみこと)を祀り、約1000年前にまとめられた「延喜式神名帳」に載る名神大社です

自分の足で辿る「生まれかわりの旅」 「出羽三山」を着地型・体験型観光の軸に

「自然と信仰が息づく『生まれかわりの旅』」樹齢300年を超える杉並木にまつまれた2446段の石段から始まる出羽三山は、文化庁により2016年度の「日本遺産」に認定されました。同県では、「出羽三山」の精神文化をテーマとした、着地型・体験型による新たな山形観光の実現を目指しています。

山岳信仰の聖地「羽黒修験道」

出羽三山は、山形県の中央部に位置する羽黒山、月山、湯殿山の総称で、月山を主峰に羽黒山と湯殿山が連なる優美な稜線でも知られています。羽黒山は約1400年前、崇峻天皇の御子・蜂子皇子が開山したと言われる修験道の場であり、自然信仰と仏教や密教の混交による山岳信仰における日本有数の聖地です。

羽黒修験道では、三つの山の特徴から、羽黒山は現世の幸せを祈る山(現在)、月山は死後の安楽と往生を祈る山(過去)、湯殿山は生まれ変わりを祈る山(未来)と見立てられ、その信仰は江戸時代に庶民の間で現在・過去・未来を巡る「三関三渡の旅」として広まりました。

山形県では、訪れる人々が自身の足で三山を巡り歩くことで『生まれかわりの旅』

を体感してもらえれば」(教育庁文化財・生涯学習課)と説明しています。

山伏の営む宿坊が参拝者の宿

出羽三山へは、山形県の内陸部と海岸部を結ぶ「六十里越街道」と呼ばれる陸路や最上川の舟運が利用され、三山周辺に点在する「八方七口」と呼ばれる登拝口から向かい、江戸時代には菅笠と白装束をまとった参拝者の列が途切れることなく続きました。

街道や関所、登拝口周辺には宿坊街が形成され、地域の人々は参拝者の旅の支度を整え、もてなすことを生業としていましたが、現在も、羽黒山麓では山伏の営む宿坊が参拝者の宿となっています。

「これまでのような『見る買う』という観光ではなく、羽黒山の杉並木の中で心を静め、荘厳な雰囲気や風の音、木の香りを肌で感じていただき、江戸時代から伝わる羽黒修験道の歴史に思いを馳せながら、精進料理を味わってもらえれば」(教育庁文化財生涯学習課)

山形県では、羽黒山杉並木を白装束で歩くコースや「山伏修行体験」などを、モデルプランとして想定しています。

宿坊をはじめ、多くの民家の軒下には羽黒山の「松例祭の大松明行事」で使われた引き綱が魔除けとして掛けられるなど、信仰と深く結びついた人々の暮らしが訪れる人々を迎えます。